

令和7年度 第3回第八次鹿島市総合計画審議会及び鹿島市まち・ひと・しごと創生会議
議事録（概要）

1. 日時：令和7年7月29日（火） 9時00分～10時50分
2. 開催場所：鹿島市役所 5階 大会議室
3. 出席者
 - （1） 委員：森委員、馬場委員、野中委員、林委員、田口委員、富永委員、馬郡委員、大代委員、恒松委員、伊藤委員、山口委員、生島委員、重松委員
 - （2） 事務局：川原政策総務部長、岩下市民部長、山崎産業部長、山浦建設環境部長、江頭教育次長、中村政策調整課長、三ヶ島政策調整課参事、森田政策調整課長補佐、峰松政策調整係長、小池政策調整係主査

4. 内容

- （1）開会
- （2）会長あいさつ
森会長よりあいさつ
- （3）議題（変更案の説明等）
 - ①基本計画の概要について
 - ②総合計画（冊子）について
 - ③まち・ひと・しごと創生総合戦略（事業一覧）について事務局から説明した。

総合計画骨子および基本構想について

ー 事務局森田補佐より内容および前回指摘いただいた分について修正等の説明 ー

前回の資料1 P11の「つながる」、「笑顔」、「かしま」のそれぞれの説明で「つながる」説明の中に「笑顔」の文言があり分かりづらかったので修正をさせていただいた。

資料2 P5に前回、鹿島市民の歌の掲載をしてはどうかという意見をいただいたが、庁内で再検討したところ今回の策定方針で冊子をなるべく薄くすることと現在の第七次総合計画にも掲載していないため第八次総合計画でも掲載しないこととさせていただきたい。

(質疑・意見等)

A 委員： 資料 2 P13 に人口減少傾向と表記してあるが、人口減少傾向は人口減少問題が始まった頃に使われていた言葉でだいぶ前の表記の仕方であり、今はもう人口減少社会に突入して人口減少しているところなので表記を変えたほうがいいのではないかと。それと、資料 2 P18 に公共施設の延べ床面積で老朽化しているところを表現されているが、市民の方からすると延べ床面積で表現したらイメージがわからないのではないかと。体育館の数や施設の数で表現したほうがいいのではないかと。

事務局(森田政策調整課長補佐)： 資料 2 P13 の人口減少傾向については表記を再度検討したい。P18 の延べ床面積も確かに施設の数等のほうが具体的なイメージが付きやすいのかなと思うのでこれについても再度検討させていただきたい。

B 委員： 資料 2 P11 の DX のところで業務や組織と表記されているが、説明では業界や組織と言われた。どちらが正しいか。

事務局(森田政策調整課長補佐)： いろんなセクションがあり、そのセクションをデジタル技術を使って簡略化したりするというようなイメージで業務と表記させていただいている。

B 委員： 業界とは関係ないということによろしいか。業界がいいのか業務がいいのかちょっと迷ったので。

事務局(森田政策調整課長補佐)： あらゆる業界でおそらく業務や組織や制度が、変革が起きる可能性があるというイメージだと思いますのでその点、もう少しイメージしたものを文章に表せるかどうかを再度検討したいと思います。

C 委員： 資料 2 P8 の「総合計画とは」のところに 第七次総合計画では市の活動の根拠となる最上位の計画であると明記されており、今回の第 8 次総合計画には明記されていない。位置付けは変わらないのか。また、P10～11 の各文章の文末で「取組を推進します。」「取り組んでいきます。」「取り組みます。」などいろいろ表現があるがこの表現が強い表現など違いがあるのか。違いがないのなら一本化したほうがいいのではないかと。また、P13 (1) の人口ビジョンの文章に「老年人口」と表記があるが、グラフには「高齢人口」と表記されている。こちらも違いがないのなら揃えたほうがいいのではないかと。

事務局(森田政策調整課長補佐)： 資料 2 P8 について市の活動の根拠となる最上位の計画であると位置づけは変わってないが、今回の第 8 次総合計画では表現はしていない。P10～11 の文末の表記についても改めて整理をしていきたい。P13 高齢人口と高齢人口の表記についても確認し表記

を合わせたい。

D 委員： 資料 2 P14 の図の中の矢印の意味を教えてください。(3) 人口減少対策の施策のイメージに出生数を増やす子育て支援の施策が、鹿島の魅力を向上し社会増につながるという文章があるが、この文章からいくと矢印は逆ではないかなと思う。

事務局（森田政策調整課長補佐）： 矢印に関しては相互に関係するという意味で書かせていただいている。基本的にはお互いに連動するという意味で書かせてもらっている。改めて印刷して冊子にする際には相互関係を表すような表現に変えていきたい。

E 委員： 冊子のイメージとして字の大きさは資料 2 のこのままの大きさになるのか？第七次総合計画と比べて文字が小さく見える。

事務局（森田政策調整課長補佐）： 今回冊子を薄くするために文字を小さくするというような考えはない。みんなが見やすいような字の大きさやフォントに印刷の際にしたいと思っている。

E 委員： 会社でいうと社訓など掲載するがそれに値するものとして、鹿島市が目指す方向性として「つながる笑顔のまちかしま」でいいのか。

事務局（森田政策調整課長補佐）： 令和 8 年度から少なくとも 5 年間は「つながる笑顔のまちかしま」を標題にすえて、それを目指すような取組をしていこうという考えです。先ほど言われた社訓的なイメージでいけば市民憲章も載せている。

F 委員： 鹿島市として DX を進められているとのことだが、ホームページにも載せるとのことで、詳しいことは QR コードからというような QR コード等の掲載の予定はあるか。

事務局（森田政策調整課長補佐）： 基本的に語句説明等は冊子の空きスペースに書く予定であるが、審議会等の審議の経過等については冊子には掲載せずホームページに掲載予定なので、そこに誘導する QR コードは掲載したいと思う。

G 委員： 第 2 章には出産子育ての支援のことが表記されており、第 4 章にも同じような記載があり内容がかぶっているように見える。第 4 章が健康と福祉の側面から見た子育て支援であれば、もう少し区別して表記したほうがいいのではと思った。

事務局（森田政策調整課長補佐）： 委員のご指摘のとおり、区別できるように再度検討したい。

基本計画の内容について

－ 事務局森田補佐より前回出た意見等からの修正点等について説明 －

資料2でP20の重点施策に多文化共生の話があるが、本章で策定する内容の中に「多文化共生」の文言の表記がないというご指摘をいただいていたので今回追加をさせていただいた。2つ目に目指すまちのすがた「つながる笑顔のまちかしま」と各章と関係性がわかりづらいとのことだったので各章に市独自の課題・取組の追記をさせていただいた。3つ目は先ほども意見が出たが、複数の章で同じような内容の文言があるという点についてはそれぞれの視点から見た表現にしたいと検討している。4つ目は市民と一体となって取り組んでいくようなイメージをというご意見だったが基本構想の中で表現したいと思っている。P22第2章の「安全安心」の表現で、もう少し具体的な事項の説明が必要なのではというご意見については各章ごとに説明を書かせていただいているのでご理解を深めていただければと思う。

P24第3章で伝承芸能のご意見をいろいろいただいた。伝承芸能については写真掲載を上位のほうにもってきて目立たせるようにした。2つ目に鹿島駅整備で誰が何を利用しやすいのかわからないという質問があった。誰もがというのは市民や観光客、電車・バス利用者、それ以外も含めてのすべてという意味で、何をというのは電車・バス・タクシー利用だけではなく普段使いをしたくなるような駅と中心商店街を含めた街全体が一体となれるような整備をさせていただこうと計画させていただいているところです。3つ目に第3章の施策の量が多いというご意見について、ある程度各章のバランスはとりたいと考えているが、適切な分類をする過程において多少のばらつきはやむを得ないとする。掲載内容及び量については今後も引き続き検討させていただきたい。

4つ目に「鹿島ファン」の表記を「かしまファン」のひらがな表記に変更してはというご意見ですが、再度検討したところ、ひらがな表記の「かしまファン」に変更させていただくこととした。

P26の第4章の「人と人が支え合う社会保障の充実」の表題について「社会保障」の言葉が行政目線の言葉になるので地域福祉に主眼をおいた言葉に変更してはどうかというご意見について、「社会保障」を「健康と福祉」に変更させていただいた。

(質疑・意見等)

C 委員：資料2 P24に若者が安心して働きやすく、暮らしやすいまちと記載があり、P26には高齢者が住み慣れた地域で安心してという記載がある。若者と高齢者をすみわけたように表現されているが、若者だけでなく高齢者も今はどんどん働いておられるので、区別せずに誰もが安心して働きやすく、暮らしやすいやみんなが住み慣れた地域というように表現をして、みんなが一緒に

なってまちづくりをしましょうというような表現にしたほうがいいのではないかな。

事務局（森田政策調整課長補佐）： 基本的には委員が言われるような主旨でいかなければいけないと思う。基本計画の中に各分野で掲載している都合上、少し焦点を絞ったような書き方をさせていただいている部分もある。その点含めて再度検討したい。

B 委員： 高齢者といっても定年がずっと上がってきて 70 歳定年という企業もある。高齢者というとすごく年取った方に聞こえる。

第 3 期鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業一覧について

ー 事務局森田補佐より内容説明 ー

（質疑・意見等）

H 委員： P2 基本戦略 4 にスポーツ施設利用促進事業の記載があり、目標が 300,000 人となっているが、1 年間の目標か。5 年間の目標か。

事務局（森田政策調整課長補佐）： 指標タイプに年間水準と記載があるので 1 年間での目標となっている。

H 委員： 実際年間 300,000 人の目標が達成できるのか。目標を達成するために市民の皆さんにアピールする方法は考えておられるか。市民体育館は雨の日は雨漏りで使えない。明倫小学校も雨漏りしている。修理しても直らない。そういうふうな状況の中で目標は達成できるのか。

事務局（中村政策調整課長）： 目標値については今までの現状を把握した上で 5 年間の積み上げを徐々に上げていってそれに上乗せした目標を設定するのが通常である。先ほど言われたように老朽化が課題となっている。その辺については随時修繕に対応しているが、なかなか追いついていないというのが課題となっている。現在専門的な部署を作って抜本的な見直しを検討している。財源が伴うことなのですぐに解決というわけにはいかない。今、資料を持ってきていただいたが、スポーツ施設の利用人数の推移について 10 年間の平均値で 298,813 人という数値が出ている。この現状を踏まえた上で 300,000 人という目標を設定されている。

B 委員： SAKURAS の利用について年間で 500 人以上使用された件数を知りたい。今分からなければ次の機会に教えていただきたい。

A 委員： 令和 12 年度の目標値に単位の記載があるところとないところがあるので統一したほうがよい。基本戦略 10 に②と③の記載があるが、①の記載がない。 あと一つ、P4 の基本戦略 12、

13に（総合計画P）と記載があるがこれは何か教えていただきたい。

事務局（森田政策調整課長補佐）：数値目標の単位については確認し統一させたい。基本戦略10の②と③は①と②の誤りなので修正したい。また、P4の基本戦略12、13記載されている（総合計画P）は削除し損ねていたのを削除したい。

F委員：基本戦略4の年間利用者数のカウントの仕方を教えてほしい。また、基本戦略の事業名に（新規）や（既存）など記載されているが、基本戦略4と5には記載がないのでどういう位置付けなのか伺いたい。

事務局（森田政策調整課長補佐）：基本戦略4と5に記載がないのは確認して書き入れたい。体育館利用者数のカウントについては申請時に書かれた人数でカウントされている。

D委員：基本戦略3の「ふるさとの豊かな自然や地域資源などを活かした体験活動の充実」は第八次総合計画の第1章の中のどこに書いてあるのか教えてほしい。第2章（政策目標2）のほうにくるのではないかと思った。第2章には教育のところで学校教育や子育て支援の記載がある。新しく教育長が代わられて教育長が議会等で鹿島を愛するというような言葉を言われていた。そういう点でつながる笑顔のまちにもつながっていくような観点なのかなと思った。資料2P22第2章で子どもに関する記載は②確かな学力・豊かな心・健やかな体の三つの要素（生きる力）について、調和のとれた教育を図りますの部分だと思うが、あまりにも一般的で抽象的なので鹿島を愛するという部分、子どもの教育という部分で掘り下げられた表現ができないかなと思った。

事務局（森田政策調整課長補佐）：基本戦略3については担当部署と協議をして検討したい。資料2の第2章②の表記については教育大綱という計画があり、教育大綱についても総合計画と同じ期間でR8年度に変更を予定されている。その新しい教育大綱と照らし合わせて再度検討させていただきたい。

I委員：政策目標4「人と人が支え合う人権と社会保障の充実」と記載があるが、総合計画第4章は「人と人が支え合う健康と福祉の充実」に修正されているので修正しなくてよい。また、総合計画では別章となっているところがまち・ひと・しごと創生総合戦略事業一覧では政策目標7となっている。総合計画で別章とされている理由はなにか。

事務局（森田政策調整課長補佐）：政策目標4の「人権と社会保障」を「健康と福祉」に修正し損ねていたのを修正したい。総合計画の別章の表記について、まち・ひと・しごと創生総合戦略は国の大きな目標の下に県、各自治体の目標があり、国の制度の中に準じた形で作らせていただい

ているので、別とは書けずに政策目標 7 とした。総合計画については市独自の計画なので第 1 章から 6 章までは市民の生活に、より密着した内容となっており、別章については自治体側が主体的にいろんな取り組みをすべきところを記載しているので敢えて別章とさせていただいている。

E 委員：基本戦略 23、25 には R5 年度末の数値があって令和 12 年度目標の数値が記載されているが、基本戦略 24 には令和 5 年度末の数値の記載はなく令和 12 年度の目標 123 万人とだけ記載されている。現状を知りたいと思ったので記載したほうがいいのではないか。

事務局（森田政策調整課長補佐）：ご指摘のとおり確認して記載したい。

J 委員：成果指標名に市民アンケートをベースに記載してある箇所があるが、アンケートの回答率が 20～30 代の若い世代のアンケート回答率が低いので若い世代の声が吸い上げられているのか疑問に思う。若い世代にアンケートの結果を絞ると結果が変わってくるのではないかと。アンケート以外に若い世代の指標を参考にしたものなどあるのか。

事務局（森田政策調整課長補佐）：アンケートは無作為抽出で年代も地区もバラバラで依頼したが、若い世代からの意見が少なかった。アンケートについては若い世代から意見を取り入れられるような取組を今後検討したい。市民アンケート以外にも若い世代からの意見徴取の機会をいろいろ検討はさせていただいている。今年度は若い世代と市長を囲む座談会を予定させていただいている。

事務局（中村政策調整課長）：数値目標の設定の仕方について課題であると思っている。目標設定については他に数値がないのか検討することも必要だと思うし、アンケートの回答率もあげていくようなやり方の検討もしていかなければならないと思う。市長も就任されてからいろんな場（例えば子育て支援センターや鹿島高校等）に直接出向いて意見を聞くような場も設けている。

K 委員：基本戦略 17 と 20 の内容が似ているので一緒にしてもいいのではないかと。また、基本戦略 25 の海道しるべの来館者数のカウントをどのようにされているのか伺いたい。ドライブがてら立ち寄られた方の数字もカウントされているのか。加工施設に特化したような利用者数を載せてほしい。それと、総合計画第 2 章に「次代を担う子どもたちの笑顔を育む」とあるが、漁協で海苔ができるまでの授業をいくつかの学校でしているのでそういう写真をぜひ載せていただきたい。

事務局（森田政策調整課長補佐）：基本戦略 17 と 20 については再度検討し、まとめられる状況であればまとめたいと思う。海道しるべの来館者数については申請を参考にカウントしていると思う。ご意見いただいた加工施設に特化した目標については担当部署に共有して再度検討させてい

ただきたい。それと、海苔の授業の写真掲載についても改めて協議をさせていただきたい。

B 委員： 今回の審議会もいろいろな意見が出てよかった。

事務局（中村政策調整課長）： 先ほど質問いただいた SAKURAS の 500 人以上の集まりの回数は R5 年度が 12 回、R6 年度は 20 回あったということでした。

(4) 閉会

馬場副会長より閉会のあいさつ

(5) 次回審議会の予定

と き： 9 月 5 日（金） 13 時 30 分から

ところ： 新世紀センター 2 階会議室

5. 配布資料

- ・ 次第
- ・ 資料 2（つながる笑顔のまちかしま ～第八次鹿島市総合計画～）
- ・ 資料 3 第七次総合計画事務事業評価（R5 末）
- ・ 第 3 期鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業一覧



審議会の様子